自立活動だより

山形県立山形聾学校　自立活動部
平成３０年７月発行
第２号　ＷＥＢ版

集団でのかかわりについて

体調が悪く心配な人に「大丈夫ですか。」と聞くと、ほとんどの場合、「大丈夫です。」と相手を気遣って答えてしまう。このような経験をしたことはありませんか。

以前、家族の体調が悪く歩けそうもない状態だったので、救急車を呼んだところ、救急隊員が「大丈夫ですか」と呼びかけると、家族は、救急隊員を気遣い「大丈夫です。」と答えました。それを真に受けた救急隊員が帰ろうとしたことがありました。

つい相手への気遣いから我慢してしまい、自分が困っていることをうまく伝えられていないことが時々あるものです。

今回は、集団でのかかわりで考えさせられる事例を紹介しますので、どのような対応が適切か考えてみましょう。幼小学部のみなさんは、先生やお家の人と話してみましょう。

（事例）

日常的な会話の中で、手話だけでなく、キュードスピーチを利用している学校があります。その学校に、キュードスピーチを知らない生徒が転校してきました。キュードスピーチを知っている２人と知らない１人の３人で会話していたとき、２人がキュードスピーチで熱心に話し出しました。キュードスピーチを知らない１人は、２人だけが盛り上がっているのでさみしい気持ちになり、「私は、キュードスピーチは分からないので、手話を使ってほしい。」と友達にお願いしました。しかし、友達から「２人だけの話題で、あなたに関係のない話をしているので、手話を使う必要はないでしょ。」と言われ、自分だけが仲間はずれになったような気分になりました。

（感想や意見など）

※キュードスピーチ（ＣＳ）は、話しことばを視覚化するツールである。ＣＳは、音素をベースとしたシステムで、顔面近くの４カ所で８種類の手の形を使うことで、話すとき口の動きが持つ情報を補うものである。